

2011年度
NEC森の人づくり講座(第23期)
実施報告書

平成 23 年 10 月 29 日(土)～11 月1日(火)

Aコース オークヴィレッジ／森林たくみ塾

Bコース キープ・フォレスターズスクール

応募状況	Aコース		Bコース		合計
	現役生	OB	現役生	OB	
エントリー数	10	2	22	10	44
参加者数	10	2	10	9	31

主 催:公益社団法人日本環境教育フォーラム

協 賛:日本電気株式会社

プログラム運営:森林たくみ塾／財団法人キープ協会

Aコース オークヴィレッジ／森林たくみ塾

■ 講座のねらい

- 環境問題解決のための「具体的行動のひとつ」としての「森の手入れを実践する」中で、自分の内面におきる気持ちの変化を大切にしながら、「実践によってはじめて課題解決へ進みはじめる」ことを実感すること。
- 森との関わりから、ポスト 3.11 の復興と暮らし方を考える。

■ 講座中に伝えたいこと

- ① 知識を蓄えたり考えたりすることだけでなく、課題の解決には具体的な行動に移すことが重要。
- ② 地球温暖化問題において、森が持つ二酸化炭素固定能力への期待感を理解する。
- ③ その能力を十分に発揮させるには森づくりを進めなければならない。
- ④ 一人より二人。素人でも束になってかかれば大きな成果を生み出す。
- ⑤ そのために、「人の環＝人を束ねる仕掛け」ネットワークづくりが大切。
- ⑥ 行動するためには、道具の的確な使用法と安全な作業についての理解が不可欠。
- ⑦ ポスト 3.11 の暮らし方を考える、その基礎は「緑の国から」。

■ そのために大切にしたいこと

- ① 蓄えた知識を「腑に落とす」まで実践する。
- ② 分かったつもりにならず、「五感」を使って物事を感じる。
- ③ 実践を通して「手応え」を感じる。

スケジュール

1日目 10月29日(土) テーマ 出会い ～知識を入れる器づくり

- 13:30 受付開始
- 14:00 開講式／オリエンテーション
- 14:40 実技 「森づくり・導入編」 KYT で危険予知～まずは伐ってみよう
- 17:00 グループ討議 「なぜ森の手入れが必要なのか」
- 18:00 夕食
- 19:00 小講義「手を掛けて森を育てる」
- 20:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」
- 21:00 「森人大交流会」

2日目 10月30日(日) テーマ 森と私のつながり ～体験を五感で感じる

- 07:00 起床・広間の掃除
- 07:45 目覚めの体操
- 08:00 朝食
- 09:30 野外講義「ミクロの視点、マクロの視点」
- 10:00 実技「森づくり・実践編」
- 12:00 昼食(お弁当)
- 13:00 実技「森づくり・実践編 ～後編」
- 18:00 夕食
- 19:00 TV会議によるKEEPコースとの交流
- 20:30 小講義「日本の森を知る」
- 21:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」
- 22:00 トークセッション

3日目 10月31日(月) テーマ 森と私のつながり ～手を動かして考える

- 07:00 起床・広間の掃除
- 07:45 目覚めの体操
- 08:00 朝食
- 09:00 実技「樹から木へ、そして暮らしの道具へ」
- 09:30 実技「森のモノづくり」
- 12:00 昼食
- 13:00 小講義「森人流、事を起こす・環を広げる」
- 14:30 2期生送り出し
- 15:30 見学「オークヴィレッジに見る木のモノづくり」
- 18:00 夕食
- 19:00 特別講座「NECのCSR活動」
- 20:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」
- 21:00 森人大交流会

4日目 11月1日(火) テーマ 次につなげるもの ～自分と対話する

- 07:00 起床・広間の掃除
- 07:30 目覚めの体操
- 08:00 朝食
- 09:00 スライドショー「4日間の活動をふり返って」
- 09:30 実技「ソロ ～たった一人でふり返り」
- 12:00 昼食
- 13:00 全体のふり返り
- 14:00 閉講式
- 14:30 プログラム終了

プログラムの報告

1日目 出会い、再開 ～環を広げる

■ 飛驒に集合

Aコース（オークヴィレッジ/森林たくみ塾）に伝わる森人の鉈。この鉈を今回受け継ぐのは、どんな学生たちだろう。「環境」をキーワードに様々な学部の学生が全国から集まり、どんな交流が生まれ、どう成長してゆくのが楽しみです。

■ 開校式



森林たくみ塾理事長・佃よりあいさつ。

「知っているから、しているへ。」「分かったつもりから、行動へ。」ポスト3.11は、自然との向き合い方や付き合い方、解決の仕方をゼロから組み立てていかなければなりません。ミズナラは、一本の木から5000粒のドングリが出来ます。なぜでしょうか？それは自分のためだけでなく、動物との関係を分かっているからです。私たちは自然から多くのことを学ばなければなりません。

■ 実技『森づくり・導入編』KYTで危険予知～まずは伐って見よう



森づくりの活動地に到着すると、さっそくヘルメットにノコギリ・剪定バサミを装備し、森づくりの準備をしました。足場も悪ければ、刃物も使います。切った木はどっちへ倒れてくるか分かりません。どこにどんな危険が潜んでいるのか予測を立てることの大切さを学び、いざ森の中へ！森の中は、想像以上に斜面が急で、根っこや切り株もあり、思ったように歩いていくことができません。

しばらくは足元に注意しながら、先輩たちが手入れしてきた森を奥へ奥へと進んでゆきます。「足元だけでなく、頭上や周囲にも観察の目を向けて下さい。」と伝えましたが、森や手入れについての解説は一切しません。しばらく歩き進むと、今まで歩いてきた（手入れの進んだ）森とは明らかに違う（手入れ前の）森に突き当たりました。

「先輩たちが手入れしてきた森と同じになるように、手入れしてください。」ここでも、作業内容や方法については一切説明せずに作業に入ります。どんどん上を目指して森の手入れをしていきます。



■ グループ討議『なぜ森の手入れが必要か』



大学で林学を学んでいる学生でさえ、頭にある知識と目の前にある状況は違うから、何をすればいいか悩んでしまうことだろう。森づくりについて知識のない学生なら、なおさらのこと。

何も教えない、とにかくやってみることから感じた、疑問や質問・感想を紙に書き出し、グループで模造紙にマッピングをしながら貼り出しました。

同じ森の中で同じ事をやっても、感じたことは人それぞれ。他の人の考えから学ぶこともたくさんあります。

■ 小講義『手を掛けて森を育てる』



森に対してたくさんの興味が湧いたところで、森と人類の関わり方について、時代をさかのぼり、世界に目を広げて見てみました。

「母なる地球のために、そしてそこに住むすべての生き物と、七代先までの子孫のために」(ネイティブアメリカン)」ということばは、私たちが森と付き合っていく上で重要な視点であると同時に、ポスト 3.11 の暮らしを探る上でとても深い考えだと気づかされました。

■ 森人大交流会



講座開始前から、参加者同士の交流を図るためにメーリングリストを活用してきたが、本当の意味でお互いを知るのはこれからです。

まずは自分のことをよく知ってもらうことから。限られた時間で要点を伝えることも大切な要素。一人ひとり自己紹介をした。今回はパワーポイントや写真を活用して、自己紹介にも力が入っているようです。

今回は、飛び入りでOBのゼンくんも合流。猟師の視点から森と人との関わりを考える「猪鹿庁」の取り組みを熱く語ってくれました。

多少のアルコールと差し入れのジビエ料理「猪鹿ちゃん」をツマミに、交流は朝まで続いたようです。



2日目 森と私のつながり

■ 小講義「ミクロの視点・マクロの視点」



「森の手入れは、目の前だけ見ているでもダメ。近くを見るミクロの視点と、遠くから全体を見るマクロの視点の複眼を持つことが大切です。」「森の手入れには、見た目も大事。手で伐る程度の手入れで多少の失敗は、森が受け入れてくれます。まずは、思い切ってやってみましょう。」森づくりへの視点はそのまま、考え方の視点を学ぶことに繋がってゆきます。

■ 実技『森づくり・実践編』



あいにくの雨の中、今日は一日森の手入れです。グループごとに打ち合わせを終え、さっそく今日の作業に入りました。ガンガン進んでいますが、ササ刈りばかりで、木を切りはじめる様子はありません。最初の打ち合わせ通りに進んでいるでしょうか？一度集まって話し合いをしたほうがよさそうです。

みんなで集まって話し合いが始まりました。どんな森にしたら良いのか？と、悩んでいるようです。迷っている所に、スタッフからのアドバイスが入りましたよ。もう一度計画を練り直し、よし！木を伐ってみよう！となったようです。

一人ひとりバラバラの思いで動くのではなく、一つになって行動するグループ・コミュニケーションの大切さに気がついたようです。

午後からは、地続きの人工林に移り、ヒノキの伐採をしました。「手入れをするために木を伐る」から、「利用するために木を伐る」へと視点を変えた森づくりに移ります。高さも太さもある木です。安全を確保しながら、指示通りに伐り倒し、明日の箸づくりの材料を確保しました。

森で学び、森に学ぶ2日目。知識でなく、経験から学んだ多くのことを通して、参加者たちはどう成長したのだろうか。



■ TV 会議による KEEP コースとの交流



skype を利用した、A・B 両コースの参加者が会う時間です。

同じニックネーム、瓜二つの顔。遠く離れていてもつながっている、そんな不思議な時間を過ごしました。その後の交流は、フェースブック上に作成したグループに引き継がれているようです。

3 日目 森と暮らしのつながり

■ 実技「樹から木へ、そして暮らしの道具へ」



森の中に立っている時の樹の姿、丸太の樹皮、年輪、ナタで割ったときに現れる木目…。材料を仕立ててゆくと木の姿が様々に変わってきます。

■ 実技「森のモノづくり」



ナタで割ってザラザラした表面が、カンナを削るとツルツルした表情になってきます。ついつい、削ることに熱中してしまいます。自分の手で森から切り出して、自分の手で加工して、自分が使う道具を作ります。

■ 小講義「森人流、事を起こす・環を広げる」

この講座で得たものを、行動にうつすために必要なこと。それは素人の力とプロの力。それを生かすすべを学びます。

■ 見学『オークヴィレッジに見る木のモノづくり』



生きている木を使う技とは？100年使える家具をつくる技とは？オークヴィレッジのモノづくりを通して、暮らしの中に木を活かすことの意味合いを、見いだします。

まず正面にあらわれたのは、震災復興に木の力を活かすモデルハウス。震災復興に際し、オークヴィレッジは「緑の国へ」というコンセプトを提示しています。再生産可能な森林資源を活用し、持続可能な社会をどのように構築してゆくののかという観点でポスト3.11の日本を形作ってゆこうということです。

展示室内に入ると同じミズナラという木でも、強度、伸縮性、風合いなどにより様々に使い分けられている（適材適所）実例がいっぱい。最後に、「木をまるごと活かす」ものとしてのアロマ抽出工房を見学。“木の力”の幅広さと奥深さを実感しました。

■ 小講義「森と人との付き合い方」

森と人との付き合い方を、先人たちに見いだしてみます。例えば水や雪の力（浮く、滑る）を使って、山の木を里まで下ろすこと。そこには、自然との折り合いを無理なくつけていく暮らしのかたちがあります。人の力と自然の力を実によく活かす生き方は、私たちが未来に向けておこなうべきことの、とても重要なポイントを教えてくれているようです。

■ 特別講座『NECのCSR活動』



NEC CSR推進部・社会貢献室より、この講座ご担当の山辺さんにお越しいただき、NEC が取り組んでいる CSR 活動についてお話を頂きました。

社会の中で自分が出来ることって何だろうと考えている学生にとって、企業が取り組む CSR 活動には大きな関心を持ったようです。社会の中での企業の姿勢というものも垣間見え、これから就職していく学生たちにとって、有意義な内容でした。



■ 森人大交流会



みんなで過ごす最後の夜です。山辺さんに加え、飛び入りの OB たちも交え、大交流会が始まりました。今回は、この講座に応募した課題作文を読んでもらうという場面を設けました。自己紹介だけでは分からない意外な一面を見つけることも出来ました。

真っ暗な裏山へナイトハイクに出かけ、帰ってくるころそくの灯りの元でこころゆくまで語り合いの輪が広がりました。

4 日目 次につなげるもの

■ スライドショー『4 日間をふり返って』

駆け足で過ぎ去ったあっという間の 3 日間を、画像と解説でたっぷりふり返りました。

■ 実技『ソロ～たった一人でふり返り』



4 日間、皆で語り皆で行動してきました。これからの 2 時間ほどは、森の中で自分一人で過ごす時間です。あっという間に過ぎ去った盛りだくさんのプログラムの内容を、一人でじっくり噛み砕き消化する時間です。

■ 全体のふり返り

午前中の「ソロ～たった一人でふり返り」を受けて、この講座を通してみんなが得たものをお互いに共有する時間です。一人ひとりの言葉から、この4日間の成長が伺えました。

■ 閉校式

「考えてばかりいても先に進みません。考えるより先ず行動することが大切です。行動して得られた反応から次の行動を考えてゆく。そうすると行動が次の行動を導きだしてゆくのです。学ぶとはそういうことなのでしょう。」

まさに『知っている』より『している』ですね。皆さんは、この講座を通して『している』森人になることができたでしょうか？」



Aコース:オークヴィレッジ/森林たくみ塾受講生(23期生)の感想です。

※文章の一部を抜粋、加筆をしています。

■「この講座を通して獲得したものは、何ですか？」

十文字学園女子大学 RI 生

「知る」ことの喜び、楽しさ、広がり、私は今回の講座を通してこの三点を一番感じる事ができたと考えています。また、「知りたい」と思う気持ちを徐々に味わい、体験をはじめとする多くの学びから、頭の中の引き出しを増やすことができました。森に対する思い、そしてそこから考えることを自分の中にしまっておくのではなく、今後はアウトプットすること。そして更に深めていくことに努めたいと思います。また、ここでの出逢いは宝物になりそうです。同じ志を持った仲間たちは本当に心強く、四日間で様々な問題について考え、体験し、共有した時間の重みを感じています。今後も学生の漲るパワーを積み重ね、出来ることに一つ一つ取り組んでいきたいと思っています。

東京薬科大学 RA 生

この講座を通じて獲得したものは「つながり」です。一緒に参加したメンバー、OB・OGの先輩方、森や環境について「知っているからしているへ」と教えて下さった、たくみ塾スタッフさん、今までいかに狭い世界で生きてきたかを実感させられました。「好きだからする」この単純なことが私にはできませんでした。お金がない、時間がない、そういうのはただの言い訳であり無理やり自分を納得させようとしているだけ。本当にやりたいことなら後先考えないでやってみよう。だって私は21歳。未来はどのようにでも変えられる。そう思わせてくれた皆さんに本当に感謝します。私の夢は自分の生まれ育った町の緑を守ること。これからいっぱい知識をつけ体験し「知っているからしている」を実行します。4日間ありがとうございます。

名古屋工業大学 大学院 MI 生

本講座に参加し、森やメンバー、スタッフの方々と関わることで心の中の雲が晴れていくのを実感しました。私は生物多様性の保全に関心があり参加したのですが、どう行動すれば貢献できるのかわかっていませんでした。そしてこの講座を通じてわかった答えの一つが「手をかけて森を育てる」ということでした。実習中に一本の木を切り倒しました。これにより陰っていた地面に太陽の光が射しました。たったこれだけの事ですが、光の差すことで生き物たちが集まる環境が作り出せるそうなのです。この光が射したとき私の心の雲が晴れていきました。多様性の保全という問題に貢献する方法は、こんなにも身近にあったのです。とはいっても、木を倒したのは私一人ではなくメンバー全員の協力とスタッフの方々の指導があってこそできたことです。私はこの経験を忘れず、これからの行動に生かしていきたいと思っています。

信州大学大学院 SK 生

「知っているからしているへ」この講座で最初に言われていた言葉である。何も教えられないまま行った森で、今までの私は森の手入れや理想的な森の状態について、知っているつもりになっていたということに気がついた。スタッフのアドバイスを受れたり、仲間と話し合いながら森の手入れをするうちに、最初に疑問に思っていた事が解決への一つのプロセスを学ぶことができた。また、一緒に過ごしてきた仲間達は皆、様々な経歴を持っていて、予想していたよりもはるかに大きな刺激を受けることができた。今回この講座に参加できて、本当に良かった。

東京家政大学 MO 生

森林についてこんなにも考えめぐらされたことは今までありませんでした。「自然は大切」「環境教育は必要」という、ある種の常識じみたことや先入観に囚われた考えしか持っていませんでしたが、この講座に参加した今、その考えが大きく変わりました。その昔、人は生活に必要な物の材料、エネルギー源として利用するために木を切り、自然とその行為が人と森とのバランスを保ち、生態系のバランスを

保たせていました。「自然は大切」だから何も手を加えないのではなく、人や他の生物の生活環境を豊かにする為にも、ある程度自然に手を加えることは必要なのです。昔は当たり前に行われていたことが、人間によって当たり前ではなくなってしまうが故に環境の大切さが叫ばれる時代になり、環境教育の必要性が問われるようになりました。私自身も環境教育を学んでいますが、自然について考える人が増え、森と人とがバランスを保ちながら共存できる社会となり、環境教育の必要性がない世の中を作ることが一番の理想型なのではないかと思いました。普段の生活の中では経験できない事ができたからこそ、このような考えを持つことができたと同時に、この考えは今後の私の学びの視野を大きく広げることになりそうです。この講座で共に学び合えた仲間、スタッフの皆様に心から感謝します

十文字学園女子大学 MS 生

私が獲得したものはズバリ「森」のことだ。テレビ画面や文章上の情報で知ったつもりになっていたが、実際に木とふれあうことで命の尊さや素材の良さ、森の持つ底知れぬ生命力の強さを感じることができた。森の手入れ、そこに住む動物たち、里で生活する私たち人間、その全てが関係し、一つのサイクルを作り上げることが森と共に生きることだと強く感じた。また、行動を起こすにあたって目標を持つことの大切さを身をもって学んだ。何をすれば良いのかを考える前に、目標を達するためのプロセスを考え、そのために今できる最善のことは行うことが重要である。この四日間で森との関わりの中、共に学ぶ仲間の絆の大切さも実感した。このつながりをこれからも継続していき、また次の出会いへとつなげていきたい。

首都大学東京 TS 生

最後の振り返りの時間で号泣しました。なぜなら「僕は一人ではない」ということに心や体の感覚として気付いたからです。11人の仲間からは「勇気」「希望」「人のあたたかさ」をもらいました。いなごやトマトやキャベツやレタスやサーモンなど自然の恵みからは、水と心と体のエネルギーをもらいました。太陽の光や星の瞬きからは、心の休息や静けさをいただきました。11人の素敵な仲間とOB・OGと出会えました。人と自分、他人、自然とのつながりを大切に育てながら、みんなで一歩踏み出して、全ての生き物たちと7世代先の子孫にとって住みやすい世界をつくりたい。素敵な時間とつながりに感謝します。

佛教大学 MN 生

私がこの講座を通して学んだこと、それは「つながり」の大切さだ。自然とのつながり、人との体験などたくさんつながりを感じた。また、それと同時につながれることの有り難さを感じた。自然や人などでたくさんこととつながってられるからこそ今の自分がある。そして「知っている」ことから「している」ことにするためには、「体験」が大切だと思った。体験するからこそ、木のあたたかさなどを肌で感じる事ができる。自分自身で体験して気付いたことだからこそ「腑に落とす」事ができる。この講座に参加したからこそ得た「つながり」を大切に、次世代の子どもへの伝え方を考えていきたい。

獨協大学 AH 生

初めて整備された登山道がない、本来の山登りというものをしました。日本において山は森とほぼ同義であり、よって森らしい森を初めて歩いたとも言えます。平地で生きてきた身にとって、媒体を通してみることはあれどこうして体感するのは、大変衝撃的でした。知っているつもりでも、実際に体感してみなければわからないということを感じました。またそのような体験を元に、新たな疑問点や知識、興味を得て、派生するように「自分」の世界観が広がったと思います。自然だけではなく、スタッフの方、一緒に講座を受けるメンバー達からも、森に関係のある・なしに関わらず、様々なことを教えて頂きました。この講座を通じて、新たな森に対する視点を得て、また自分も含めた人間の多様さや可能性を改めて認識しました。

高知大学 KY 生

私は今回の森の人づくり講座に参加して多くを学びました。まず「知っているからしている」というフレーズがとても印象的に残っています。茂っていて暗かった森が、笹や木を切ることで明るくなるということも知っている・してみることで新たな発見ができ、それについて調べたりすることでより多くの事をものにしていけると思います。また人の関わりについても学ぶことができました。森の人づくり講座では、本当に様々な分野の人が参加しており、自分の今まで知らなかったことを聞けたり、一緒に体験したりできる貴重な場です。それも今回限りではなく、今後も付き合っていける仲間だと思います。

Bコース キープ・フォレスターズスクール

◆ 講座のねらい

環境問題解決の第一歩は「コミュニケーション」から。自然と人、人と人をつなぐ“インタープリテーション”の考え方や手法を学びながら、より良いコミュニケーションのあり方を考えます。

- ① 環境教育について学ぶ(企業やNPOにおける環境教育の取り組みについて知る)
- ② インタープリテーションの考え方や手法について学ぶ
- ③ 自分自身と環境教育との関わりについて考える(自分なりの言葉で説明できるようになる)
- ④ 全国の仲間とのネットワークを作る
- ⑤ 自分自身のねらいを達成する

◆ そのために大切にしたいこと

- ① 体験から学ぶこと
- ② お互いから学ぶこと
- ③ 楽しみながら学ぶこと

◆ 4日間のテーマ

- 【1日目】 出会う (人との出会い、自然との出会い、自分との出会い)
- 【2日目】 つなぐ (人と自然とをつなぐ、人と人をつなぐ)
- 【3日目】 気づく (体験から気づく、お互いから気づく)
- 【4日目】 ふりかえる (体験をふりかえる、日常につなぐ)

◆ この時期のテーマとして

- ①東日本大震災からの復興に向けて
グループワーク中心の実習を通して、コミュニケーションの重要性、人と人が手を取り合うことの大切さ、またそこで生まれる新しい可能性についての理解を促しました。
- ②生物多様性に関連した学び
キープ・やまねミュージアムでの、『研究』、『保護』、そして『教育』の3本を柱にした取り組みを見学と解説を通して学びました。また、自然の見方、伝え方を養う環境教育プログラムを学生自身が組み立て、お互いに体験、評価をシェアしました。

◆ スケジュール

1日目／10月29日(土) テーマ: 出会う

- 14:30 開講式
 - 15:00 講座のウォーミングアップ／アイスブレイキング
 - 16:00 休憩、チェックイン
 - 16:30 自己紹介と目的の共有化
 - 1) キープ協会の紹介
 - 2) 自己紹介シートの作成
 - 3) 講座のねらいの共有
 - 4) 受講者自身のねらいを記入、全員の前で発表・共有
 - 18:00 夕食
 - 19:15 講義: 環境教育概論
 - 20:15 1日を整理する時間
 - 20:30 終了(以降、自由交流会)
-

2日目／10月30日(日) テーマ: つなぐ

- 07:00 実習: 環境教育プログラムの体験① 早朝ウォーク & やまねミュージアムの見学
 - 08:15 朝食
 - 09:15 実習: 環境教育プログラムの体験② 参加者主体型プログラムの体験
 - 12:00 昼食
 - 13:00 実習: コミュニケーションを考える
 - 13:55 休憩
 - 14:20 講義: インタープリテーション概論①
 - 14:45 実習: 環境教育プログラムの実施&相互評価／オリエンテーション
 - 15:15 実習: 環境教育プログラムの実施&相互評価／準備
 - 18:00 夕食
 - 19:15 Aコースとのインターネット交流
 - 20:05 1日を整理する時間
 - 20:20 終了(以降、自由交流会／オプション: 人生の先輩に聞いてみよう!)
-

3日目／10月31日(月) テーマ: 気づく

- 07:00 実習: 環境教育プログラムの実施&相互評価／準備(任意)
 - 08:00 朝食、OB生チェックアウト
 - 09:15 実習: 環境教育プログラムの実施&相互評価／実施と相互評価
 - 11:45 実習: 環境教育プログラムの実施&相互評価／ふりかえり
 - 12:30 講義: インタープリテーション概論②
 - 12:55 昼食
 - 13:35 OB生クロージング
 - 14:10 OB生お見送り
- ～以降、23期生のみ～

- 16:00 CONE リーダー登録について
16:15 講義:安全管理
17:10 NEC の環境活動について(NEC CSR 推進部 高山 雅史さん)
18:25 夕食
19:30 環境教育プログラムの体験③ ナイトハイク
20:15 1日を整理する時間
20:45 終了(以降、自由交流会)

4日目/11月1日(火) テーマ:ふりかえる

- 08:00 朝食、チェックアウト
09:30 補いの講義
10:00 質疑応答
10:15 休憩
10:30 講座のふりかえり・わかちあい
1) ふりかえりスライドショー
2) ふりかえり用紙の記入
12:00 昼食
13:15 23期生クロージング
14:00 終了、解散

◆各プログラムの報告

1日目：出会う



開講式

すでに初冬の雰囲気、清里に、23期生10名と、OB生8名が集まった。一緒に名札を作りながら、すでに集まった学生たちからは笑い声があがっていた。とてもいい雰囲気で今回の森の人づくり講座が幕を開けた。



講座のウォーミングアップ(アイスブレイキング)

まずは緊張をほぐすための時間。秋晴れの気持ちいい空の下で、出身地別に集まって自己紹介。お互いの相性を確認したり、ボールを使って協力し合うアクティビティを通して、終わるころにはすっかりと仲良しになっていた。

自己紹介と目的の共有化

自己紹介も兼ねて、今回の講座の目的を整理する時間。Bコースの講座の軸となる、インタープリテーションとコミュニケーションについて学ぶことはもちろん、受講者それぞれがここに来た目的も整理して、お互いに発表があった。背景も目的も多様な18名がこの講座でつながること、何が生まれていくのか、楽しみだ。





講義：環境教育概論

最初の講義は環境教育について。そもそも環境教育とは何なのか？環境問題について、今知っている知識を整理する時間や、環境教育の概念を通して、それぞれが自分なりに環境教育を考えていく、そのスタートが今切られた。

2日目：つなぐ

環境教育プログラムの体験① 早朝ウォーク&やまねミュージアムの見学

清里の森へ始めて入る時間。早朝の冷たい空気の中、動物の痕跡を観察をしたり、木の実を口にしたりしながら、森の中を歩いた。やまねミュージアムでは、ヤマネの不思議な生態を学ぶと共に、アニマルパスウェイの取り組みについても学んだ。建設会社と環境の協働から生まれた取り組み。ITと環境の協働で生まれた本講座。異なるものがつながることで生まれる新しいものの素晴らしさを再認識できた。

環境教育プログラムの体験② 参加者主体型プログラムの体験

インタープリターが一方向的に自然解説を行うのではなく、参加者自身の気づきや発見を促していくプログラム。一本の木から感じ取ることも人それぞれ。お互いの発見を共有しあい、認め合うことで、新しい自然の見方、そして仲間の様々な側面を知ることができる。



実習：コミュニケーションを考える

言ったことと伝わったことは違う。相手に伝わりやすいコミュニケーションって何だろう？実習を通して、一方向のコミュニケーションと、双方向のコミュニケーションの違いを、体感することができた。



講義：インタープリテーション概論①

先ほどの実習を踏まえて、この時間はインタープリテーションについて学んだ。どうしたら相手にちゃんと伝わるのか？何を伝えるのがインタープリテーションなのか？この次の時間は、いよいよ受講者がインタープリテーションを行う時間。



実習：環境教育プログラムの実施&相互評価 準備

自分たちがインタープリターになる時間。しかも、自分たちで考えて、オリジナルのプログラムを作っていく。どうしよう？まずは外で考えてみよう。自分たちの心が動いたものほど、参加者には伝わりやすい。仲間と真剣に悩みながら、議論は続いていく。



3日目：気づく

実習：環境教育プログラムの実施&相互評価

いよいよここまで考えたプログラムを実施する時間。緊張しながらも、お互いに助け合い、とても素晴らしいプログラムが6つも生まれた。実施の後は、お互いに感想や改善点を書いたメモを元に、プログラムの良かった点や、どう改善したらよりよいプログラムにできるかをグループで話し合った。さらに、このプログラムを作るに当たって、グループ内で起きていたコミュニケーション



講義：インタープリテーション概論②

実際にインタープリテーションの実施を体験したことを踏まえて、もう一度コミュニケーションとインタープリテーションについて整理をする。体験したからこそ、より自分ごととして理解を深めることができた。



OB生クロージング

8名のOB生は一足先にここで講座を終了する。大学1年生から社会人まで、多様な経験と感性を持ったOB生の関わりが今回の講座全体にとっても良い刺激を与えてくれた。

講義：安全対策

自然体験活動には、欠かすことのできない安全対策。なぜ自然体験が必要なのか？講師から問われたこの質問に真剣に答えることで、環境教育の持つもう一つの側面、安全教育に気が付いた。また、危険因子をみんなで考え、整理することで、危険には天候や動物などの『見えるもの』と、関わる人間の気持ちや疲れなどの『見えないもの』があることを再認識した。



講義：NECの環境活動

NEC・CSR推進部の高山さんに、企業としての取り組みを説明して頂いた。受講生は、今後社会人として巣立っていくこともあり、真剣に耳を傾けていた。質問が講義の時間だけでは収まらず、夕食の時間まで続くことに。ここで聞かせて頂いたお話は受講生にとって、今後の貴重な判断材料になるだろう。



環境教育プログラムの体験③：ナイトハイク

この日の最後は、夜の森を歩く「ナイトハイク」。視覚があまり使えない状況において、聴覚をはじめ、これまであまり使っていなかった感性が目覚めます。最後は満点の星空の下で、一人で静かに過ごす。自分と自然、そして自分の内面と向き合える時間になった。

4日目：ふりかえる

補いの講義

いよいよ最終日。これまでの講義や実習を整理して、自分の中へ落とし込む。大切なことはここで学んだことを、それぞれの日常に活かしていくこと。そのためにも、自分事として考える、自分の感性を磨く、そしてなにより楽しみながら活動していくこと！



講座のふりかえり・わかちあい

ここまでそれぞれが学んだことを、自分で整理して、ふりかえる時間。しっかりとふりかえることで、3泊4日の様々な体験を自分の中に落としこめる。また、それぞれの学びをお互いに共有することで、十人十色の学びと気づきを知ることができる。



23期生クロージング

4日間の講座もこれで終了。受講者の中からは、『たったの4日間、だけど家族でも、学校の友達でも、ここまで深い話をお互いにできた仲間他にいない』との言葉も。本音で話し合える、お互いに刺激し合える貴重な仲間、このつながりを大切にしていって欲しい。



Bコース:キープ・フォレストースクール (23期生)の感想です。

※文章の一部を抜粋、加筆をしています。

「今回の講座の体験を踏まえ、これからあなたは環境教育活動にどのような形で関わっていこうと考えますか？」

法政大学 KM生

今回、KEEPの講座に参加して、率直に感じたことは環境教育の敷居は思っていたよりも低いということである。こうやってしまうと、誤解を生んでしまうかもしれないが、私の言いたいことは誰にでもとつきやすいもの、親しみのもてるものということである。講座受講前は環境教育と聞くと、難しそうだったり、関わりづらそうなものという印象だった。しかし、講座中に実際に行なったように、葉っぱや周りの木々などの身近なものなどを使って環境教育を始められるということを知った。ただ、そこで重要なのは普段とは異なる視点を持つこと。講座中に、自然の見方の違い1つで見える世界はがらりと変わるということをつくづく思い知った。でも、その異なる視点を持てるようになるには、インタープリターの存在があってこそであり、その視点を提供することがインタープリターの腕の見せ所なのだと考えた。なんか偉そうなこと言って、すみません。講座でお世話になったインタープリターの方々是我们を非日常の世界へ連れて行ってきて、それまで気づいていなかった自然の魅力をたくさん発見させてくれた。そんなインタープリターの方々を見て、とても素晴らしい仕事だなと思い、インタープリターの仕事に関心を持つようになった。そして、これまで以上に自然を好きになると同時に、その魅力いっぱい自然をいかにして守っていけるのかについて真剣に考えさせられた。やはり、どんなに専門家がマスコミが環境、環境と叫んでも、人々が自然環境を本気で守りたいという意識が無ければ、人々の環境への取り組みは行われまいだろう。その意識へのきっかけづくりをすることが、環境教育の大きな役目であり、存在意義なのではないかと考えた。講座前の私が環境教育についてあまりよく知らなかったように、日本では環境教育の知名度はまだそんなに高くはないと思う。しかし、日本には環境教育という分野ののびしろは無限にあるような気がする。だって、溢れるほど豊かな自然が日本にはあるのだから。それに、幸か不幸かはわからないが、折角日本人に生まれてきたのだから、この豊かな自然に眠る魅力にきづけないうまま終わってしまうのは勿体ないことだと思う。まだまだ私の知っている自然の魅力は氷山の一角にすぎないかもしれないが…。また、一人でも多くの人々が日本の自然の魅力を感じ、愛着を持てば、環境問題の解決・緩和につながるのではないと思う。これから大学の知人達にKEEPで学んだことなどを色々な人に話し、一人でも多くの人に環境教育の良さをアピールしていきたいと思う。また、1年生のうちにOAKとKEEPの講座を両方受けられたことの意味は本当に大きなものだと思う。これらの講座を通じて学んだ多くのことを今後の大学生活で存分に活かしていきたい。

広島修道大学 KT生

今回の講座で私は「コミュニケーションの難しさ」について学びました。今まで私は、自分の意見が言えたらちゃんとコミュニケーションがとれたと勘違いしているところがありました。講座を聞いて、コミュニケーションをとるには自分の意見を「言う」のではなく「伝える」ことが重要であることに気づきました。講座が終わってからは、人と接するときに「伝える」ということを意識してみています。「伝える」ことを意識すると、「言う」だけのときよりも自分の頭を整理して発言するようになったこと、相手の話をよく聞くこと、どう言ったらわかりやすいかを相手の立場になって考えることなど、たくさん注意するようになりました。すると、ちゃんと伝わったときや相手と同じ考えだったときの喜びが今までよりも大きなものになった気がします。社会人になる前に今回の講座に参加できて本当によかったと思いました。

私は環境教育に深く携われるような職業に就いたり、環境教育活動を行う団体に属したりしているわけではありません。むしろ、人生で環境教育活動に関わっていこうと考えたこともありませんでした。しかし今回の講座を聞いて、将来インタープリターとして環境教育活動を行いたいと考えるようになり

ました。就職先がすでに決まっているため、まだ「いつかできたらいいな」程度の考えなのですが、具体的には自然体験活動の指導者やエコツアーの企画者になりたいと考えています。そのために、まずは友達や家族などの周りの人に今回の講座で習ったことや自然環境について「伝える」練習を続けていきたいと思っています。また、就職先が牧場のため、自然に触れる機会や環境のことを考える機会が多くなると思います。そこで働きながら、自分は何を人に伝えることができるか、自分は今後環境教育にどう携わっていききたいかを考えていきたいと思っています。

筑波大学 MA生

私は来春から青年海外協力隊の環境教育隊員として南米で活動することになっている。協力隊として、仕事として環境教育をする立場になるが、正直不安ばかりが募っていた。

環境問題を解決していくアプローチは様々考えられるが、私がやりたいのは「教育」である。つまり、そこでは“人”がキーワードになっているが、実はこの“人”というのが環境教育のなかで何よりも難しい対象なのではないか。講座内で3人グループでの環境教育プログラムの企画、実施を行った。それぞれ熱い気持ちを持って集まった参加者で、自分の得意とする分野も違えば、環境教育で何を伝えたいのかも違う。このグループ内での合意形成の過程が私にとっては大きな成長を遂げる場であった。なかなか意見が活発に出ずに、自分だけで進めてしまっているような感覚になったり、その状況を打破しようと葛藤したり、陰悪なムードになったり、1つのひらめきで一気に話がまとまったり。そしてプログラムをメンバーでやり遂げたときの心地よさ、一緒に乗り越えたメンバーを心から大切な存在に感じた。これは何ものにも代え難い、経験である。

このプログラム作成での過程は私が協力隊として派遣されてからも直面することだと思う。言語も違い、文化も違う場で「環境教育」を現地スタッフと協働する中、どうやってチームとして同じ方向を向いて教育をしていくのか。私はそのヒントを得られた気がする。すべては「コミュニケーション」である。自分のことを話すこと、そして相手のことを引き出すこと。そしてその結晶となる「環境教育」を実施したとき、被体験者も実施者も楽しむことが大事であり、プログラム内で人と人が繋がったとき、初めて人と環境とが繋がっていくのではないか。

私はこれから青年海外協力隊としてこのキラキラと輝く経験を忘れることなく、活動に生かしていこうと思う。最後にこの講座でできたすべての人との繋がりに感謝して。

山梨県立大学 SY生

コミュニケーションについて考えたり、インタープリテーションという初めて知る言葉について知ったり、多くの人と出会うことができたり…。本当に言葉では表せないくらい「NEC 森の人づくり講座 2011 秋」は私の中で大きなものとして残りました。その中でも最も印象に残っている「誰ふわ？オレふわ！」という自分たちで創りあげたプログラムについて、この感想文では述べたいと思います。

プログラムをつくる前にラビットさんのプログラムを体験しました。ネイチャーゲームのようなプログラムで自分が幼いころに経験したことがあるようなものでした。しかし、プログラムの手順が1つ1つ説明されていくうちにワクワクがどんどん募っていきました。この経験は初めてで、原因は適切な説明をされているのに次になにをするのか、どのようなゲームが繰り広げられるのか、まったく予想がつかないという状況がワクワクを引き起こしているのではないかと考えました。そのため、自分たちがプログラムをつくる時も参加者のみんなにこの『ワクワク』を感じてほしいと思いました。

私が育った長野県王滝村は清里と同じように多くの自然に囲まれた場所であったためか、私は森のなかに入っても他の参加者のように感動したり不思議に思ったり、そういった感情があまりありませんでした。それは今までに見慣れた景色だから、そう感じていたのかもしれませんが。しかしプログラムをつくる前にグループ3人で森に入ったとき「なぜだろう？」という景色が森のなかにはたくさんあることに初めて気がつきました。見慣れた景色だからだなんて全く関係はなくて、ただ注意しながら見ることと「あれ？おかしい」と気づくことが必要だったようです。それに気づけたことも大きな収穫でした。そして私たちのプログラムは私が「土がふわふわしている」と気づいたことから始まりました。プログラムをつくることは難しく、スムーズに進んだとはとても言えませんが3人で協力しながら、また3人

のバランスがうまくとれていたことで完成したと思います。プログラムを実施する場所への移動を含めたプログラムだったため、参加者のみなには『ワクワク』を感じてもらえたと思います。さらには、実施中なのに「これ、めっちゃ楽しい！」という声が聞けて、思わず3人で笑みがこぼれました。

今回の講座で得られたことは数えきれないほどたくさんあり、どれも今後の自分自身の活動に生きるものでした。講義やプログラム作成だけでなく、交流会や食事などを含めて参加者とスタッフのみなさんと話せたことも多くの学びにつながりました。もりびとの仲間を大切にしながらも、今後の自分の活動に今回の講座を生かしていこうと思っています。参加者の仲間や事細かに講座を支えてくれたスタッフの皆様、そしてこのような素晴らしい機会を与えてくださった NEC の CSR 事業に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

東京環境工科専門学校 AI 生

私は環境教育にかかわる仕事を目指しているのですが、今回の講座にはそのための勉強をするつもりで参加しました。とても内容の濃い講座を受けられたこと、まずはお礼申し上げます。KEEP スタッフの皆様ありがとうございました。

今回の講座では、講義や実習の内容はもちろん、スケジュールの組み立て方や時間配分、演出もすごく工夫されていて、「なるほど～」と思うことばかりでした。「アイスブレイク」「振り返り」など、言葉としては知っていても具体的にはわかっていなかった事柄について、実際に3泊4日の時間をかけて体験できたことはとても貴重な経験だったと思います。

今回の体験を踏まえて、今後どのように環境教育活動に関わっていくか…？環境教育に対する社会的な要請というものが、「人と人をつなぐ」ところにもあるということを知ったのが、目からウロコでした。参加者同士のコミュニケーションの大事さを考えたことがなかったのですが、インタープリテーションの実習を体験して、参加者同士で話し合ったり協力したりする経験が大人にとっても面白く、心に残るものだとわかりました。今後は学校の勉強とともに、機会を見つけて色々なプログラムを受けたり、子供キャンプなどにも関わってみたいと思います。また、将来的には「人に伝える」だけでなく、実際に環境保全の活動もしていきたいです。環境教育のゴールが「行動できる人をつくる」ことにあるならば、インタープリターがまず自分で行動しなければ！フィールドは活動をじっくり続けるためにも、地元北海道でと考えています。今回の講座で出会った人達と、また仕事の上で関わることができれば幸いです。

東京都市大学大学院 TO 生

私の今回の講座での目標は、インタープリテーション (IP) について学び、体験し、実践し、普及していくことです。実際に清里で IP 実習を通して体験してみて、やはり自分にとって必要な考え方だと感じました。今後は実践し、また多くの方にもこの IP の考えた方を伝えていきたいと思っています。

私は現在環境活動を行っているサークルを運営しています。サークルの活動では主にごみ拾い活動と高尾山での間伐活動を行っていますが、特に間伐活動を行っている高尾山は清里にも似た山と自然のフィールドなので、講座で学んだことを活かしやすいと考えています。私たちが活動している場所には山がありスギやヒノキがたくさん育っている場所です。私たちはそこで増えすぎた木の伐採をしています。その他にも小さな小川が流れており沢ガニなどの生物も多くみられます。また、私たちが泊まることのできる施設には木材を加工できる機材があるので、ただ間伐するだけではない「林業の流れ」をそこで体験することもできます。私はこのフィールドを使って森の素晴らしさや森の恵みのありがたさ、林業を営んでいる人が存在することの大切さなどを伝えたいです。そして、私だけが伝えるのではなくサークルに属するメンバーが私と同じように高尾の森で様々な想いを見つけ、伝えていく存在になってもらうためにも力を注いでいきたいです。

また、私は来年から廃棄物処理の会社で働きます。そこでは収集した生ごみを堆肥にする施設やその堆肥を利用して野菜を育てる農場もあるので、現在のフィールドとは違った新しいフィールドがそこにはあります。私はそこで一度収穫のお手伝いをしたことがありますが、とても新鮮で面白く多くのことを感じる事ができました。収穫は子供たちや近隣に住む方々を招くこともあるようなので、ただ収穫

して終わりにするのではなく、そこで+αを伝えることができればより貴重な体験となるのではないかと今からわくわくしています。

自分の持っているフィールドを最大限活かし、講座で学んだことを実践しながら今後も環境教育活動に携わっていきます。

千葉大学大学院 KH生

今回この講座に参加でき、多くの「環境」に関心のある仲間に出会えたことで、一言に「環境（教育）に興味がある！」と言っても十人十色と実感。だからこそ、「自分の軸はなんだっけ？」と再点検する機会となった。

まず、私の環境教育を通しての最終的ゴールは「1人でも多くの人に『自然を大切にしたい』と思ってもらえるようにする。そして、思うだけではなく、各人が自発的・継続的に行動してもらえるようにすること」。

では、この漠然とした目標をクリアするために、具体的に自分は何をして行きたいか？

今、私が他にも関心がある中で主軸としたい具体的手段は森林セラピーだ。

森林セラピーを選んだ理由は、自分がかつて体を壊した時に自然に癒された経験から、自然の中で過ごすことは健康にも役立つということを普及させたい思いがある。そして、多くの人に環境保全に対し感心をもって貰うには…と考えた時、『人間は、快適で快樂が得られ、自分の益になることには動くはず！』と勝手に定義し、だからこそ森林セラピーは、「自然の中でリラックスできる。（一段階：自然を楽しむ）⇒自分の健康維持にもなり一石二鳥！（二段階：自然の恩恵を意識）⇒自分の健康の役に立つ森林なら、守らなければ！（三段階：自発的行動の喚起）⇒自然保全（最終段階：社会貢献的意識の芽生え）」という流れを作り出せるのではないかと感じた。最初は不純な（？）動機でも、最終的に自然を意識し大切に思う気持ちにたどり着けば良いと思う。

また、青少年から成人を対象に、生涯学習的な環境教育をしたいという思いがある。なぜなら、「未来を作るから」と子供ばかりが対象とされ、大人が対象となることが少ないからだ。子供への教育の大切さには一理あるが、一方、社会を回すのは大人。そして子供を育てるのも大人。そして、超高齢化の日本では、おじいちゃん、おばあちゃんも、未来を築く子供を育てる。だからこそ、私は大人向けの環境教育に重要性や需要があると思うし、普及させていきたい。

書きたいことはまだまだありますが、そんな思いを土台に、これからも自分の知識や体験の糧を増やして精進していきたいと思います！

日本大学 MA生

今回の講座をうけ、環境教育活動の大切さを再認識しました。森で1人きりで考えていたとき、夜、満天の星空を見上げていたとき、大切な自然、地球環境を失いたくないと思いました。そう改めて思えたのも今回の講座があったからです。一度自然に帰ることの大切さを感じました。都会にいと環境のことを考える機会はまったくありません。確実に脅かされている地球環境へのリアリティをもっていないのが現実だと思います。そのような人たちへの環境教育活動を行うことにより、意識改善を図りたいです。しかし私自身、環境が専門ではないのでそこまで詳しく環境について知っているというわけではありません。なので自分にできることは、限られています。それは伝えることと学ぶことではないかとおもいます。

伝えることとは今回の講座を回りに広めること。私は今回の講座で計り知れないものを学びました。一番の収穫は環境へ対する意識の高い熱い仲間との出会いです。大学生活のなかで同じ志を持った同世代に出会う機会はあまりありません。この出会いを与えてくれた講座には心より感謝しています。そんな素敵な仲間たち、先輩方へ感化され私自身負けてられないなど強く思いました。そんな素敵な仲間未来の森人講座の後輩たちにも出会ってもらいたいです。そして KEEP という緑豊かな自然の中で環境についても一度一から考えてみてもらいたいです。

学ぶことは、環境教育活動に自分自身が参加し学び続けるということです。今回の講座で出会った仲間たちは様々な環境教育活動に取り組んでいました。知らないものばかりだったので、参加できそうな

ものから参加していきたいです。自分が参加し、環境教育の輪をさらに広げ、知識を増やし、さらに様々な環境教育活動に参加していければいいなと思っています。

最後に今回の講座から本当に大きな影響を受けました。このような講座がひろまっていくといいです。

広島文教女子大学 KN生

私はこのNEC森の人づくり講座を受講して、特に印象に残っていることが3つあります。1つ目は、環境教育活動をするには、まず自分の立場の確認が大切だということです。環境教育は、扱う範囲がとても広いので、あれこれただ活動するのではなく、どの分野で関わりたいのか、誰を対象にしたいのかなどを明確にし、活動に取り組むことが大切だと学びました。そして、自分は何の立場に立ってこれから活動に取り組んでいきたいのかを考えてみたいと思うようになりました。2つ目は、『言う』と『伝わる』は違うということです。コミュニケーションをとる上で、自分の伝えたいことを、相手の様子を考慮しなければ、きちんと伝えることは困難だということを実感しました。より良いコミュニケーションをとるためには、お互いがお互いの言葉に反応し、受け止め、また反応するということの繰り返しが必要だと学びました。

3つ目は、見えているものを通して、見えないものを伝えることが大切だということです。わかりやすく自分の考えを相手に伝えるためには、相手にとって身近なものや、経験したことのあること、目の前で共有できているものなどを使うことが良いのだと学びました。自分の目で見えるものを通して、目には見えない大きなことも見ようとするきっかけができて、相手に伝わりやすいのだと感じました。

この講座を終えて、自分が立ちたい立場のことについて考えてみました。

今の私は、子どもが自然とかかわりたいと思ってもらえるようなきっかけをつくりたいです。私には、より良いコミュニケーションがとれるようになることと、子どもが自然に対して「変なの。面白いな。」と興味を引くような働きかけをすることが必要だと思います。

まだ私の中で具体的な方法は出来上がってはいませんが、講座で学んだ事をヒントに考えていきたいです。

この講座を通して、自分がやりたいことを少しずつ明確にすることができました。この学びを、この場限りのものにせず、自分なりに少しずつカタチにしていきたいです。

OB参加 MSさん

私は今後、講座で培った事を活かし、環境教育活動を区民対応の職務の中で積極的に取り入れ、地域にある自然環境への住民の理解を深めていきたいと考えます。

現在、私は土木、緑化、公園行政に関する業務に携わる区役所職員です。日々多くの方々から意見や陳情が寄せられますが、中でも非常に残念で憤りを感じていたのが、「落ち葉がひどいから木を伐採しろ」や、「蝉の鳴き声が酷いので駆逐しろ」などといった自然環境に対する陳情です。財産権や住民生活を侵害することは勿論できませんが、ただ一方的に自然環境を迷惑なものとして捉え、排除するような意見を、私にはどうしても受け入れがたいものがありました。

今回の講座では、純粋に環境教育の面白さやコミュニケーションによる相互理解の重要性を再確認することができました。「環境教育プログラムの実施&相互評価」では、自分たちで考えて自然への気づきを参加者に与えるプログラムをつくることの難しさや面白さを感じ、講座受講生が実施した「一本の木について観察するプログラム」や「森の中の地面の柔らかさを体験するプログラム」では、純粋に自ら楽しむことができ、改めて自然の面白さや奥深さを体験することができました。また、講義のなかにあった、環境問題が生じている理由は『「自然≧人=人」の関係の乱れ』があるからだという視点が非常に勉強になりました。

講座の体験を受けて今までの自分の職務を振り返ると、住民からの要望をありのままにできる限りかなえることだけが「良き対応」だと思っているところがあったように思います。しかし、それでは根本的に私が受け入れ難い声への解決を先延ばしにしているだけであり、陳情者の根本的な意識改革につながらないことに改めて気付かされました。

今後は区民への応対の中に、環境教育の視点を取り入れ、自然の面白さや気づきを与えられるようなきっかけを与えられるような職員になりたいと思います。まず、陳情者の声を現場で聞くことを心がけ、その現場の自然を目の前にしてその魅力や気づきを与えるための要素を探し、少しでも自然環境に対する理解を深めてもらえるようにコミュニケーションをとっていきます。

OB参加 NTさん

たくさん感じ、考えた3日間だった。OGとして参加した今回の講座。初めての山梨・清里。社会人になった自分。新たな出会い。自分・人・世界と真剣に向き合える、そんなひと時を過ごせた気がする。

私がこの講座に参加したきっかけは、自然が好きだから、新しい出会いは面白そうだから、という単純な理由からだった。正直、「環境教育」というキーワードに対しては、取っつきにくいイメージを持っていた。自然環境を守るなどという言葉は、ひどく偽善的に聞こえていたからである。自然>人間であって、自然<人間ではない。そんな中で環境を守ろう！と言うのは、人間のただのエゴなのではないかと考えていた。

しかし、今回の講座を受講し、少し考え方が変わった。「環境教育」とは何も、環境のためにあれをしろ、これをしろ、と押し付けるのではなく、あくまで自然の素晴らしさ・美しさを共有するものであり、その後の行動は個々の判断に任せているものだと感じた。「教育とは好きになること」、学生という身分を卒業して大いに実感していることである。

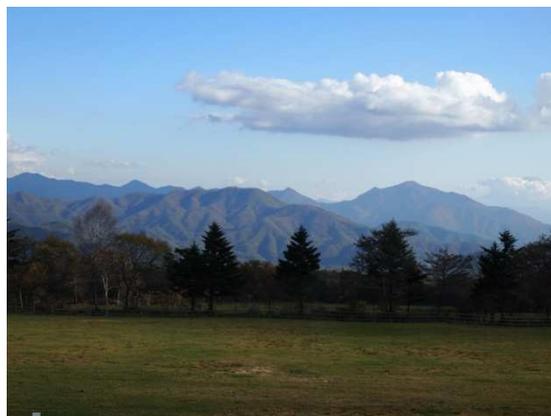
感想文のテーマ「環境教育活動にどのような形で関わっていかうと考えているか」であるが、まずはこの講座で学んだこと・感じたことを周囲の友人に伝えていきたい。これも立派な環境教育活動だと考える。清里という土地で感じた自然の素晴らしさ、また、環境について真剣に議論する森人の仲間たち、普段の生活では味わうことのできない大きな刺激を受けることができた。この良い刺激を他の人にも共有していきたい。

また、自分にとって身近な九州の自然もじっくりと見ていきたい。森人講座終了した後、福岡の森で間伐のイベントに参加してきた。探せば身近にも活動している団体・企業・人はたくさんいる。身近なところにも目を向けて、自然と共存した生き方を模索していきたい。

OB参加 KMさん

私はオークブレッジ/森林たくみ塾Aコースの11期生であり、当時はBコースを受講していませんでした。今回私はOBとして、森の人づくり講座キープ・フォレストーズスクールBコースに参加させて頂きました。貴重な体験ができたことに感謝します。

そして、運良く森の人づくり講座修了生である友人と参加できたことでオークとキープの講座で生まれたつながりを保ったまま社会人になってOBとして現状を伝えられたこと自体が彼らに良い影響を与えることができたと思いますし、実際にそのような意見を現役の修了生やスタッフから頂きました。Bコースで学んだことは、環境問題全体を参加者全体のワークショップで考え、清里の森に入り実践形式で自然の大切さを伝えるインタープリターの重要性や人間同士のコミュニケーションの大切さを知ることができました。



そして、講座を修了してからできることを考えました。

私は、地域や社会で環境教育活動をするには森の人づくり講座のように“つながりづくり“と”環境教育の実践する場”があることが大事であると考えます。今後も講座を修了した学生達が自由に自主的に活動や交流ができて、社会人もさりげなくサポート参加できるような環境が多くできることを望みつつ、そのような雰囲気づくりのためにできることから行動に移していきます。そのためにも講座修了生との交流ができる飲み会などの交流イベントや森の人づくり講座修了生 OB 向けの環境教育講座もスタッフや NEC の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

本当に今回 OB として参加できたことに感謝しております。スタッフの皆さん本当にありがとうございました。森の人づくり講座を続けるためにも努力していきますので今後ともよろしくお願ひ致します。